

# SITAシンポジウム40回記念パネルディスカッション SITAシンポジウムの来し方, 行く末

自分にとってのSITA  
これからのSITAに望むこと



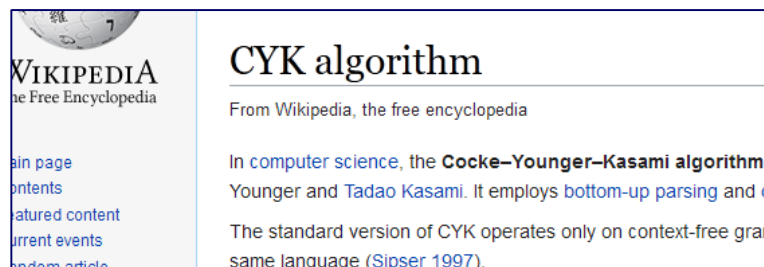
楫 勇一  
名古屋大学

# 自分にとってのSITA

「SITAを通じた体験、SITAから得たもの、SITAの思い出など、  
自己紹介を兼ねて、ご自身のSITA経験を5分以内で」

自己紹介...

- 阪大・嵩研出身
- 当初の専門はオートマトン，形式言語理論



嵩忠雄 教授  
(肩書は当時のもの)



藤原融 助教授



渡邊創 (産総研)

暗号チーム



高田豊雄 助手



山本宙 (東海大)

符号チーム



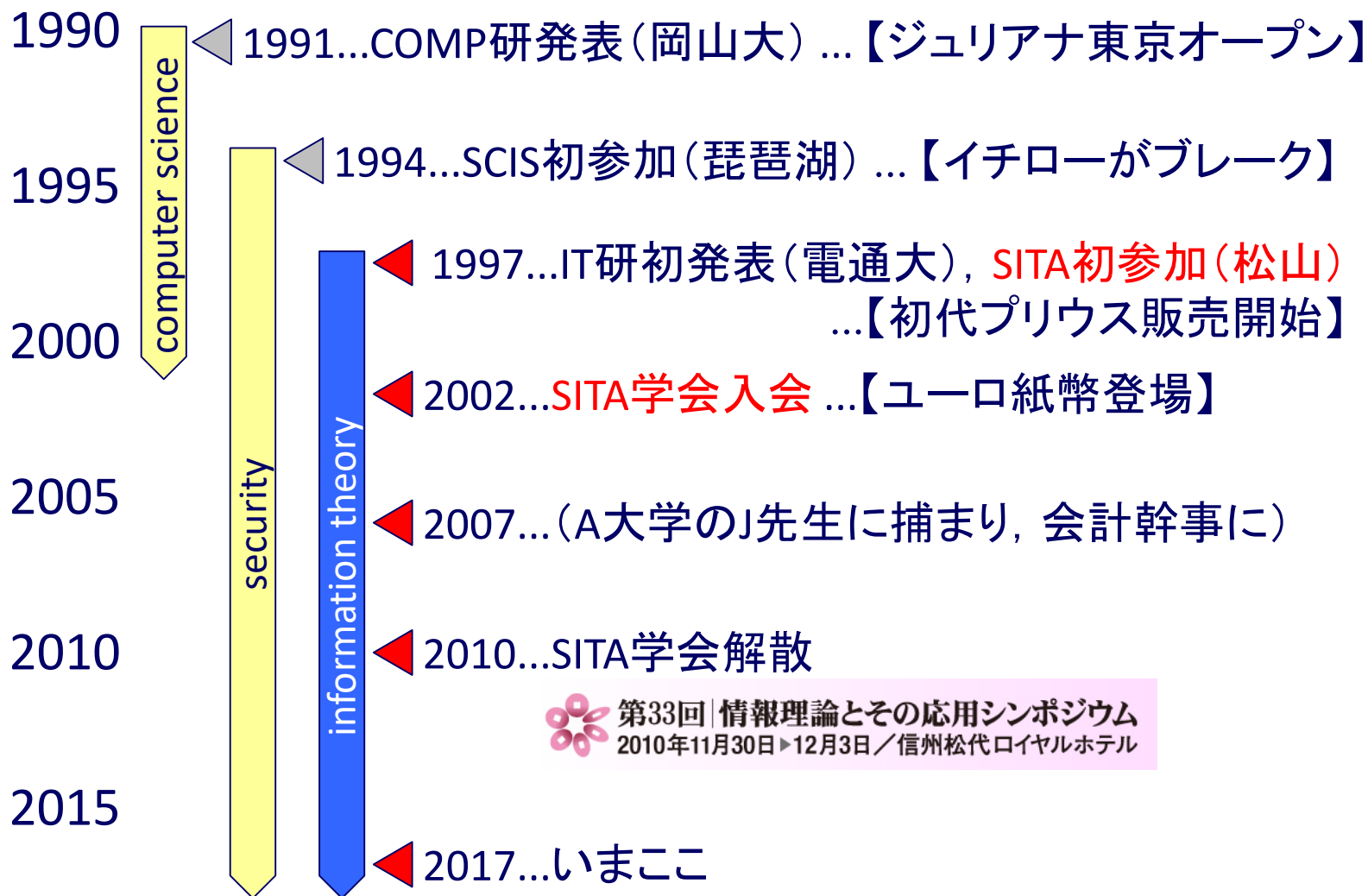
関浩之 講師

楫勇一 (名大)



言語チーム

# SITAとの関わり



# SITAへの関わりから学んだこと

2つの関わり方:

「研究討議の場に参加する」+「**学会の運営を支える**」



## ■ SITA学会解散時の実務担当

- ◆ どのようにSITA学会が作られ、変わってきたかを俯瞰
- ◆ 「研究の場は、自分達の手で作っていくもの」

- ◆ **できないことはない、やろうとするかどうか**

The image shows two pages from a magazine titled 'デザイン' (Design). The top page is a notice for the '情報理論とその応用学会 (SITA) ロゴマーク募集' (SITA Logo Mark Collection). It includes details about the competition, such as the deadline (June 30), the prize (150,000 yen), and the rules. The bottom page is a notice for the 'FADC2000 「あなたの夏をデザインしてみませんか」' (FADC2000 'Can you design your summer?'). It features an illustration of a fan and details about the competition, including the deadline (May 16) and the prize (500,000 yen).

月刊公募ガイド, 16, 5, p.124, 2000.

# これからのSITAに望むこと

「次の10年、20年でSITAに望むこと、若手研究者に望むこと、情報理論に望むことなど、ご自身のSITAあるいは情報理論の未来像について5分以内で」

若手研究者に望むこと:

## 頼まれた仕事は断らない

- 論文査読, 編集委員, 学会・会議の役員...
- 「自分では選ばない仕事」は, 自分の幅を広げるチャンス
- 出来るかどうかを考えるのは, 頼む人の責任

# SITAに望むこと

## 分野間の競争を意識した改革を

- ◆ ヒトもカネも、「わかりやすい研究」に流れがち
- ◆ 他分野との競争に打ち勝たなければ、分野全体が危うい

## 求められるもの

- **情報発信**の戦略(メディア活用, デモ etc.)
- **速報性**に優れた成果発表手段
- 若手研究者・学生に「**達成感**」を与える仕掛け



any idea?